

31定道議会

戦後の記憶、次世代に引き継ぐ 今を生きる世代の義務

丸山はるみ道議は9月24日、第3回定例会一般質問で、「戦後80年と平和の取り組み」に関し、戦争の記録を次世代に引き継ぐことの重要性和「アイヌ民族と戦争被害」について知事にたずねました。



戦後80年にあたり、鈴木知事は戦没者追悼式の式典で「記憶を風化させることなく、次の世代に伝えていくことは、私たちの使命です」と述べています。

丸山道議は知事に対し「戦争の記憶を次世代に伝える上で大切なことの一つにアイヌ民族と戦争の被害の歴史がある」と

平和施策の必要性和 取り組みについて

指摘。日本兵と同様に徴兵されたアイヌ民族は、軍隊でも差別を受け、危険な最前線に送り込まれた等の証言があります。が、公式記録にはなっていません。丸山道議は道として、アイヌ民族への差別・戦争被害に関する資料をまとめる取り組みを求めるとともに、戦争の記憶を次世代に引き継ぐ取り組みを強化すべきと訴えました。

知事は「いかなる状況下でも、アイヌであることを理由とした差別は許されない。戦争の記憶や平和の尊さを若い世代に引き継いでいけるよう、取り組みを進める」と明言しました。

31定道議会

米政策～失政の反省を 今後の農政にどう生かすか

丸山道議は、農政の失政をどう反省し今後に生かしていくのか、道の姿勢を問いました。道は「国が行っている米政策全般についての検証を注視するとともに国に効果的な政策を求めていく」と国頼みの姿勢です。

丸山道議は米不足の一端



道の主体的取り組みで 担い手・後継者支援を

米価高騰が今も続いています。国の減反政策による米不足が原因で、北海道は国の誤った需給調整に従った責任があります。

を担った当事者意識が薄いと、再度反省を促しましたが、知事は同じ答弁を繰り返しました。

丸山道議は続けて「本道農業維持のために、中小家族経営農家に対し、担い手・後継者支援など、抜本的強化・拡充を国任せにせず、道が主体的に取り組むことを求めました。」

「ヒグマ対策意見書」を全会一致で採択 住宅地等でも安全確保のうえ捕獲可能に

今年度、小樽市でも頻繁にクマの目撃が報告されています。道内では、7月に福島町で新聞配達中に、また、8月には知床羅臼岳の登山道でヒグマに襲われ、2名の方が命を落としました。

ヒグマが出没する地域では、地域行事の中止や子供の通学の送り迎えなど道民生活に大きな影響が出ています。今年9月、改正鳥獣保護管理法により、市町村の権限で緊急銃猟が可能となりました。環境省が公表した緊急銃猟のガイドラインでは、マニュアル作成が推奨されています。道内ではすでに13自治体で作成済みで、さらに158自治体で作成に向け検討中となっています。

道議会では第3回定例会において、「緊急銃猟制度などヒグマ対策のさらなる推進を求める意見書」を全会一致で採択しました。ここでは、ハンターに対しその責任の重さに見合った処遇を求め、公務員としての身分を与えて公務災害を受けられるようにすることや、ヒグマ警報などにより中止されたイベント等への保障、指定管理鳥獣対策事業交付金の満額措置を求めました。

芸術の秋～道立近代美術館へ～



ムーミン・シリーズが有名なトーベ・ヤンソン。幼少期から画家を目指し、15歳で政治風刺雑誌に挿絵掲載が始まったのは15歳のとき。

彼女の多彩な魅力をぜひ！
11月24日まで開催中。

～国賠同盟小樽後志支部総会でご挨拶～

今年は戦後80年、第31回目の治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟小樽・後志支部総会が行われました。

1925年に制定された治安維持法は、戦前から戦中、絶対的権力で国民を押さえつけ、数十万人を逮捕・投獄、そのうち拷問で虐殺や獄死した人が百九十四人、獄中で病死した人が千五百三人と甚大な犠牲をもたらしました。

参院選で、「日本人ファースト」と排他的言論で票を伸ばした参政党が、秋の

臨時国会で「スパイ防止法」案提出を目指すとしています。国民民主党や維新の会の動向も注視が必要です。

歴史の過ちを繰り返さないために、国賠同盟の運動の必要性を感じました。



～投資家からも厳しい目が～



定例会ごとに行われてきたダイバーシティ（多様性）勉強会。選択的夫婦別姓がビジネス界からも待たれていると、経団連担当者の大山みこさんから講義を受けました。